

個人3

受 令和 5 年 8 月 25 日
付 (午前)・午後 9 時 00 分

一般質問（個人） 通告書

令和 5 年 8 月 25 日

尾張旭市議会議長 殿

氏 名 いとう伸一

尾張旭市議会会議規則第50条第1項の規定により9月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1 質問事項 3 件

2 質問方法

	1回目 一括質問、一括答弁 再質問以降 質問事項（大項目）ごとの一問一答
<input type="radio"/>	1回目から 質問事項（大項目）ごとの一問一答

↑ 選択する方法に○を付す。



質問事項 No. 1-3	教育現場のAI活用について
要 旨	<p>(4) AIの出す回答への対応について</p> <p>これからの未来は、AIの技術はさらに進歩し、AIが身近になり、AIと共に生きていく社会になると思われます。</p> <p>卒業して社会に出ると、AIとの向き合い方で、生活のみならず、それぞれの人の卒業後の進路や、仕事の進め方が変わると言われています。</p> <p>その際、AIはいろんな答えを出してくれますが、教育現場では以下の①と②のどちらのスタンスでいくのが良いのでしょうか？</p> <p>①なぜそうなるかという「答えの理由」の学習を重視する。 この場合AIが出した答えの過程を重視します。 なぜ、そういう答えなのか？AIが答えた理由を学習します。 AIが普及しても、AIが答えを出す過程の理解は学校で学習すべきという立場。</p> <p>②AIが出した答えを基にして、答えの出た理由はあまり考えず、その先を創造していく。 時間がかかる面倒なことはAIにやらせて、生徒はその情報を得た上でその先の事柄を考える。多分、企業の開発業務等ではこの立場になるのではないかと思います。 つまりAIにできることは、学校で学習させる必要性がないという立場。</p> <p>今後の社会情勢や技術の進歩によって判断が変わると思われませんが、今の時点での考えを聞かせてください。</p>

※ 申し合わせ事項に留意する。

